

## 平成 25 年度 第 9 回 マザーレイクフォーラム運営委員会 議事録

日時	2014 年 3 月 14 日 (金) 18:15~20:30	
場所	滋賀県庁北新館 5-A 会議室	
出席者 (50 音順、 敬称略)	石河 康久	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	井手 慎司	滋賀県立大学環境科学部
	北田 俊夫	NPO 法人 びわこ豊穰の郷
	川端 隆弘	公益財団法人淡海環境保全財団
	佐藤 祐一	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
	野田 晃弘	NPO 法人蒲生野考現倶楽部
	松沢 松治	びわ湖の水と地域の環境を守る会
	村上 悟	NPO 法人碧いびわ湖
	村井 洋一	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
望月 孝幸	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課	

※今回欠席（敬称略）：伊吹美賀子（湖南流域環境保全協議会）、小林泉（滋賀県琵琶湖環境部理事）、関慎介（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課）、廣田大輔（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課）、辻博子（一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク）、中野隆弘（びわ湖エコアイデア倶楽部）、中村満（湖南・甲賀環境協会）、平山奈央子（滋賀県立大学環境科学部）、堀彰男（滋賀県魚のゆりかご水田プロジェクト推進協議会）、三和伸彦（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課）、村上浩継（フリーランス）、山口美知子（滋賀地方自治研究センター）、渡辺維子（元：公益社団法人滋賀県環境保全協会）

### 今回の決定事項（要約）

- ・ 今年のびわコミ会議で午前中の発表を担ってもらう団体の候補を 5 つ選定した。また午後のワークショップの企画・運営やプレエクスカーションについても実施してもらいたい団体をピックアップした。今後依頼を進めていく。あわせてエントリーシートの作成・登録についても案内する。
- ・ MLF のキャッチフレーズを、「つながりに気づき、つながりを築く」とすることに決定した。

### 1. 各ワーキングからの進捗状況の報告

4 つのワーキング（WG）について、関係者から前回の運営委員会以降の協議・検討結果の報告があった。報告を受けた議論の概要は以下の通りである。なお報告については配布された各 WG の議事録も参照のこと。

#### (1) WG1 マザーレイク曼荼羅（報告者：佐藤）

- ・ エントリー団体の曼荼羅図の第一弾を作成した。エントリー情報から 2 軸にマッピングした。
- ・ 作成した曼荼羅図はすでに Web サイトの掲示板を通じて広報済み。今年のびわコミ会議の案内や開催概要をあわせて、より多くの団体・個人に広報していきたい。まずはエントリーをしてくださった団体のうち、メールアドレスの記載のあるところにはメールで上記の連絡を行っていく。
- ・ 郵送等による連絡は手間もかかるため、こうした広報はできるだけメールを通じて行っていきたい。今後新たにエントリーを依頼する場合は、できるだけメールアドレスを聞くようにする。

## (2) WG2 Web サイト(報告者:佐藤)

- ・ 1/31 に WG を開催。その後も村上浩継さんが中心となって、業者とも連絡を取りながら更新を進めてくれている。
- ・ 特に登録関係のページを分かりやすくするように改良中。

## (3) WG3 地域連携(報告者:村上(悟))

- ・ 2/5 に WG を開催。第 1 回目の WG であったので、水辺保全・再生活動に向けた地域連携について、参加者が課題と思うことを自由に挙げてもらうところから始めた。
- ・ 課題として挙がってきたのは、信頼関係の構築、地域課題を共有する場づくり、寄付してくれた人たちへのフィードバックといった点である。これらについて、県域全体というよりは、特定の地域の中で検討や実践を進めていく。
- ・ 守山や栗東ではすでに取り組みを進めており、守山での内容についてはパンフレットとしてもとりまとめたところである。
- ・ 会議への参加者が少なかったので、次回は企業や関連団体などにも声をかけていきたい。

## (4) WG4 びわコミ会議(報告者:井手)

### 1) 午前中の発表について

- ・ 発表団体は、4 団体ではなく 5 団体に依頼することとする。
- ・ WG から提案のあった団体のうち、びわっこ大使と三河湾プロジェクトがあるが、マザーレイク計画とのつながり（特に、びわコミ会議の中での位置づけ）を明確にしておく必要がある。
  - 子どもの参加、また県外の取り組みから学ぶといった視点から、依頼することにする。
- ・ 5 団体としては、永源寺の森林保全 (kikito ら)、オオバナミズキンバイ駆除活動 (豊穰の郷ら)、家棟川 (TOTO (株) ら)、びわっこ大使、三河湾プロジェクトとする。

### 2) 午後のワークショップについて

- ・ 午前中の発表団体の他、WG で提案のあった団体、昨年のワークショップ運営団体、目野さん、すでにご希望をいただいている中村満氏らにも声をかける。

### 3) プレエクスカーション

- ・ 運営委員会独自のエクスカーションを企画するのではなく、各団体が 6~8 月頃に実施する活動をびわコミ会議のプレエクスカーションとして位置づけさせていただき、広報していくこととする。
- ・ 上記午前・午後の候補団体にも、プレエクスカーションとして位置づけられる活動・イベントがないか、あわせて声をかける。
- ・ 今年のびわコミ会議のチラシは、A3 中折り、内側にプレエクスカーションの紹介を列挙するイメージとする。デザインやレイアウトは運営委員会で一括して検討する。

## 2. その他

- WG3 にも関連して、地域における課題について関係者が話し合う場をつくるため、滋賀県では「取り戻せ！つながり再生モデル構築事業」を進めている。このたび、このモデル地域として3地域を選定したので、その進捗について適宜この運営委員会でも共有していく。
- 今年の淡海の川づくりフォーラムにおいて、「市民自然観察会」がMLF賞を受賞した。西の湖で野鳥や植物の調査を地道に続けており、それをデータとしてしっかりまとめておられた。びわコミ会議にも何らかの形で参加してもらえないか、声をかける。
- MLFのキャッチフレーズとして、前回のびわコミ会議テーマ候補にも挙がっていた「つながり気づき、つながり築く」とすることが決まった。Webサイトのヘッダ部に記載するなど、PRに用いる。
- 第15回世界湖沼会議がイタリアで9月1~5日の日程で開催される。ILECおよび滋賀県から補助が出る予定なので、関心のある団体は検討してほしい。
- 次回は4月中旬に実施する予定。日程調整は別途行う。

### 【当日のホワイトボード】

The whiteboard contains the following handwritten notes:

- WG4 (びわコミ)**
  - ① プレエクスカーションの開催
  - ② 声かけ団体
  - びわ.こ・三河湾 → MLとのつながりは? 限られた時間の中で バランスがよくなる?
  - 米巻
  - 4団体 → 5団体
  - プレゼンター 西崎士人 → プレ
  - 永源寺 → kikitō 杯エム?
  - オオバナ → 学生 or 中エム
  - 家棟川 → Toto 工場長 (企業)
  - 湖月魚 / ビワマス (ミミ) (ひか) (県外) (社会)
  - テーブル企画 → 去年の参加者にも声かけ
  - 桂川 → 防災関係なら 見学OK (祝祭系) (PM)
  - 目野さん → PM 呼び (中村満さん) 防災関係
- プレエクスカーション**
  - ・ 巡回団体に含めて声かけ
  - ・ 現地見学 → 活動参加・体験
  - ・ 向い合わせは各団体で
  - ・ デザイン・レイアウトは一括して考える
- WG1 (まんだら)**
  - ・ まんだら + びわコミ → エントリー団体等にも送らる
  - ・ X-ル 200 団体
  - ・ エントリー 50 団体
  - ・ FAX
  - ・ X-ル FAX > PR
  - ・ X-ル プトリス までお送りだけ用く / お知らせok
- WG3 地域**
  - ・ 信頼関係の構築 / 課題の共有 (の場づくり)
  - ・ 寄附してくれた人たうへのフィードバック) など 支援を受ける側の課題
  - ⇒ 試行しながら
  - ・ 県全体よりは 具体の地域で
  - ・ 参加者がウケた
  - ・ 前回はギョウ → 企業などにも声かけしたい (地産産物・う-ジetc.) → しが NPO 企業-とかも?
  - ・ 県「取り戻せ!つながり再生モデル」 → 地域について話し合う場づくり
  - ・ 「つながり気づき、つながり築く」
  - ・ 次回 4月中旬 → 再調整

— 以上 —